

# スーパーマーケット販売統計調査資料

2019年3月実績 速報版(パネル270)

2月実績 確報版(パネル270)

2018年度実績 速報版

(2019年4月23日公表)

## 調査資料概要

### 【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

### 【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

### 【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

### 【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

### 【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

### 【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年4月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

## スーパーマーケット販売統計調査 2019年3月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	88,555,531	100.0%	100.7%	99.5%
食品合計	80,196,163	90.6%	100.8%	99.5%
生鮮3部門合計	30,278,447	34.2%	99.6%	98.3%
青果	12,343,264	13.9%	96.0%	94.8%
水産	7,792,050	8.8%	101.3%	100.0%
畜産	10,143,134	11.5%	103.1%	101.7%
惣菜	9,225,442	10.4%	101.3%	99.8%
日配	17,077,906	19.3%	101.1%	99.8%
一般食品	23,614,367	26.7%	102.0%	100.9%
非食品	5,857,355	6.6%	99.8%	99.4%
その他	2,502,060	2.8%	101.3%	100.7%

### 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,479,613	43	100.6%	99.7%
関東地方	33,217,063	73	101.6%	100.3%
中部地方	10,918,414	53	100.7%	99.6%
近畿地方	18,228,016	44	99.1%	98.0%
中国・四国地方	8,870,982	34	100.9%	99.2%
九州・沖縄地方	4,841,444	23	100.1%	99.6%

### 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	612,788	44	94.2%	94.8%
4～10店舗	4,095,828	76	98.4%	98.7%
11～25店舗	9,833,454	62	100.1%	99.5%
26～50店舗	15,865,022	44	100.7%	99.8%
51店舗以上	58,148,440	44	101.0%	99.6%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,786,426	
総店舗数 (店舗)	7,953	店舗平均月商 (万円)	11,135	
総売場面積 (㎡)	13,181,631	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年4月23日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査  
 2019年2月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	81,767,871	100.0%	98.7%	97.7%
食品合計	74,340,145	90.9%	98.9%	97.7%
生鮮3部門合計	28,211,022	34.5%	97.5%	96.4%
青果	11,550,603	14.1%	94.7%	93.7%
水産	7,091,742	8.7%	99.8%	98.6%
畜産	9,568,678	11.7%	99.3%	98.1%
惣菜	8,453,012	10.3%	100.2%	98.9%
日配	15,880,969	19.4%	98.9%	97.7%
一般食品	21,795,142	26.7%	100.2%	99.1%
非食品	5,192,258	6.3%	97.0%	96.7%
その他	2,235,518	2.7%	101.4%	100.9%

## 地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,174,670	43	99.1%	98.1%
関東地方	30,207,365	73	99.3%	98.1%
中部地方	10,015,394	53	97.7%	96.9%
近畿地方	17,995,746	44	98.2%	97.4%
中国・四国地方	8,048,532	34	98.1%	96.8%
九州・沖縄地方	4,326,164	23	98.6%	98.0%

## 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	541,418	44	88.9%	93.1%
4~10店舗	3,611,344	75	96.9%	97.1%
11~25店舗	8,924,305	62	97.6%	97.4%
26~50店舗	14,679,948	45	98.2%	97.2%
51店舗以上	54,010,855	44	99.3%	97.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	79,085,742	
総店舗数 (店舗)	7,951	店舗平均月商 (万円)	10,284	
総売場面積 (㎡)	13,173,202	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.2	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年4月23日

日本スーパーマーケット協会  
 オール日本スーパーマーケット協会  
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

## スーパーマーケット販売統計調査 2018年度実績（パネル270）速報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,076,200,628	100.0%	100.5%	99.4%
食品合計	961,922,320	89.4%	100.9%	99.6%
生鮮3部門合計	364,511,686	33.9%	100.5%	99.2%
青果	148,187,707	13.8%	100.6%	99.3%
水産	93,095,767	8.7%	100.3%	99.0%
畜産	123,228,211	11.5%	100.6%	99.2%
惣菜	109,029,673	10.1%	102.2%	100.5%
日配	209,225,377	19.4%	100.9%	99.8%
一般食品	279,155,584	25.9%	100.9%	99.8%
非食品	78,813,898	7.3%	97.8%	97.5%
その他	35,464,409	3.3%	98.5%	98.4%

### エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	149,782,336	43	100.6%	99.1%
関東地方	397,533,702	73	101.0%	99.8%
中部地方	131,659,016	53	100.4%	99.4%
近畿地方	230,557,459	44	100.0%	99.5%
中国・四国地方	107,679,793	34	100.6%	98.7%
九州・沖縄地方	58,988,321	23	99.0%	98.7%

### 保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	7,725,328	44	95.2%	95.9%
4～10店舗	46,165,997	73	99.3%	98.8%
11～25店舗	123,237,337	64	99.1%	98.6%
26～50店舗	191,138,507	45	100.0%	99.1%
51店舗以上	707,933,459	44	101.0%	99.8%

※保有店舗数カテゴリーは2018年4月時点での保有店舗数による分類

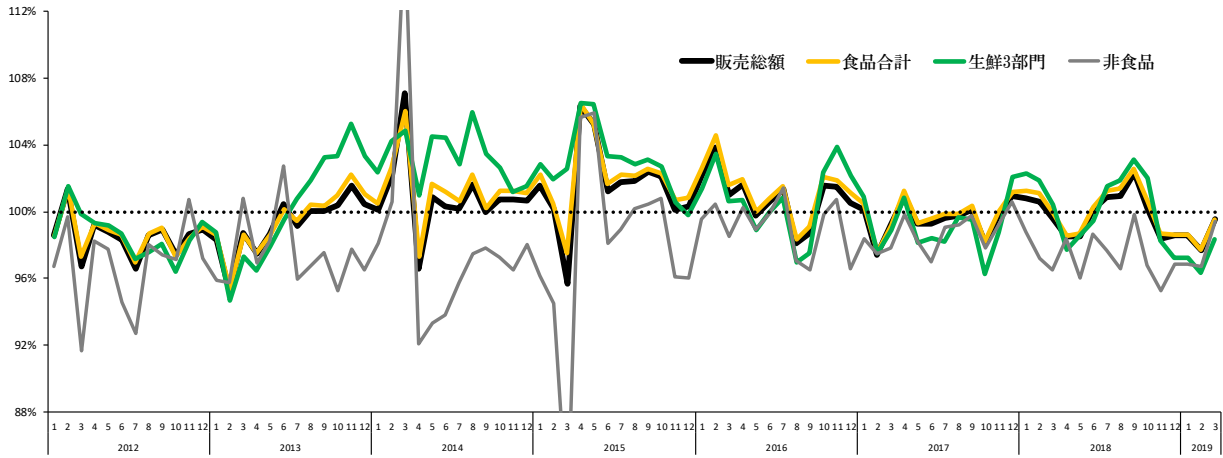
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,048,277,598
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

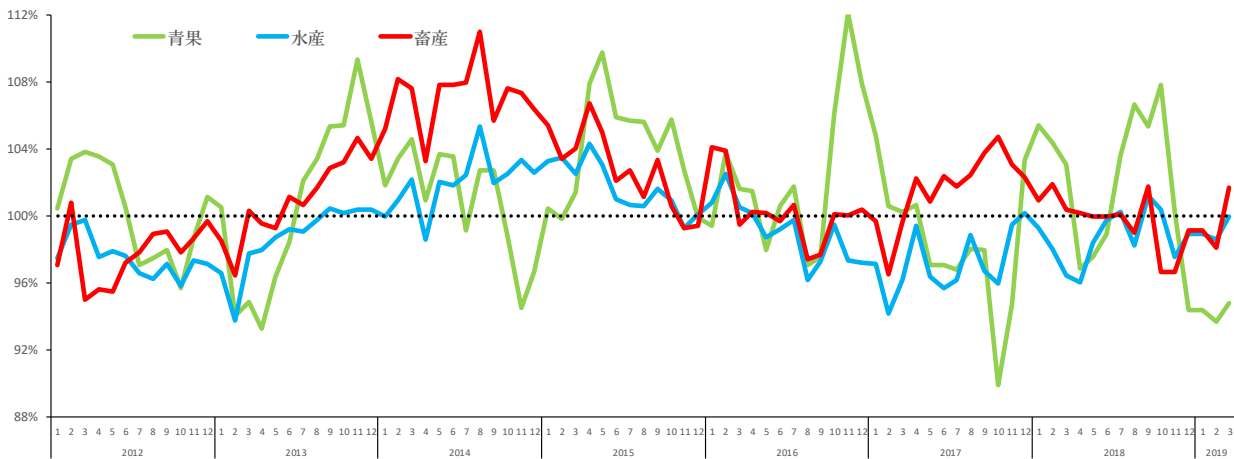
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年4月～

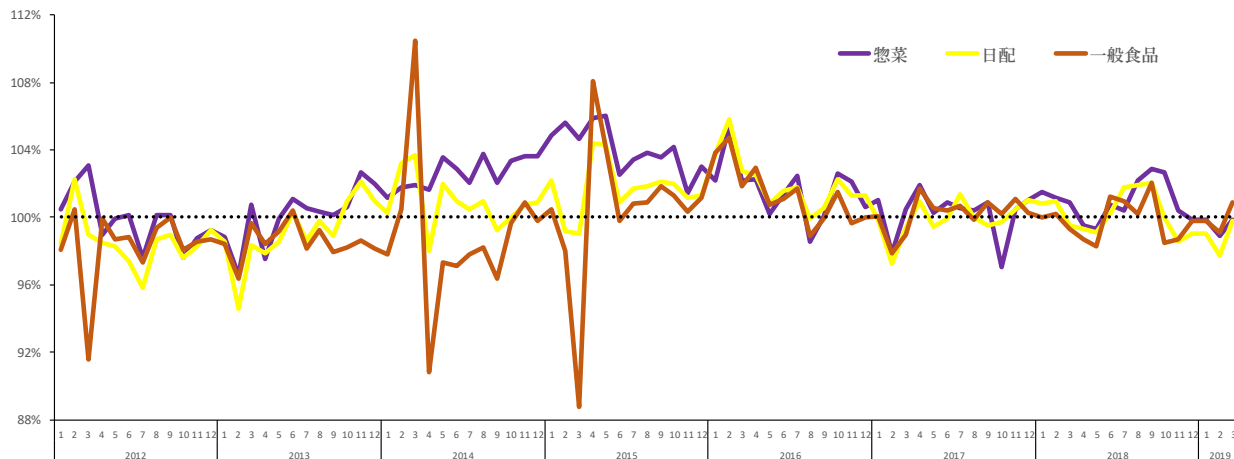
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年3月実績は速報値

## 2019年3月エリア別気候状況

### 1. 3月気温の特徴：全国的に高く、東・西日本はかなり高かった

上旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった

中旬：北日本でかなり高く、東日本で高かった

下旬：北日本で低かった。一方、東・西日本と沖縄・奄美は高かった

2018年3月との比較：上旬は北日本を中心にやや高く、中旬は北海道を除き低く、下旬は北日本でかなり低くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2019年3月			2018年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	3.4	2.2	-1.1	1.6	0.9	2.9	1.8	1.3	-4.0
東北地方	3.2	2.0	0.0	1.5	1.9	3.1	1.7	0.1	-3.1
関東甲信地方	2.3	1.4	1.2	2.8	2.6	3.0	-0.5	-1.2	-1.8
北陸地方	3.1	0.7	1.1	1.6	1.8	2.4	1.5	-1.1	-1.3
東海地方	2.4	0.6	1.3	2.5	2.1	2.4	-0.1	-1.5	-1.1
近畿地方	2.3	0.3	1.3	2.4	2.0	2.0	-0.1	-1.7	-0.7
中国地方	2.1	0.3	1.4	1.7	1.8	1.6	0.4	-1.5	-0.2
四国地方	1.8	0.2	1.4	2.0	1.7	1.7	-0.2	-1.5	-0.3
九州北部	2.0	0.4	1.5	1.6	1.8	1.3	0.4	-1.4	0.2
九州南部・奄美地方	2.0	0.2	0.8	2.1	1.8	0.9	-0.1	-1.6	-0.1

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

### 2. 3月日照時間の特徴：ほぼ全国的に多かった

上旬：北日本と東日本日本海側でかなり多かった。一方、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった

中旬：西日本と沖縄・奄美でかなり多く、東日本で多かった

下旬：北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった

2018年3月との比較：上旬は北日本でやや多く、下旬は全国的にかなり少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年3月			2018年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	131	93	85	44	96	148	87	-3	-63
東北地方	146	116	83	84	121	138	62	-5	-55
関東甲信地方	86	133	105	91	114	155	-5	19	-50
北陸地方	143	110	86	108	140	167	35	-30	-81
東海地方	88	120	104	81	118	159	7	2	-55
近畿地方	98	106	98	101	130	181	-3	-24	-83
中国地方	114	111	96	117	125	179	-3	-14	-83
四国地方	91	134	106	103	111	168	-12	23	-62
九州北部	86	133	105	89	115	181	-3	18	-76
九州南部・奄美地方	76	183	117	81	124	189	-5	59	-72

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

### 3. 3月降水量の特徴：北日本と東日本太平洋側で少なく、沖縄・奄美は多かった

上旬：東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美でかなり多かった。一方、北日本はかなり少なく、東日本日本海側で少なかった

中旬：北日本太平洋側と東日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美はかなり少なく、西日本太平洋側は少なかった

下旬：北日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側と西日本日本海側ではかなり少なく、西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった

2018年3月との比較：上旬は全国的にかなり少なく、中旬以降は北日本で多く、西日本で少なくなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年3月			2018年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	15	79	113	462	95	6	-447	-16	107
東北地方	60	168	97	414	16	94	-354	152	3
関東甲信地方	198	117	23	449	47	84	-251	70	-61
北陸地方	66	122	93	174	108	0	-108	14	93
東海地方	167	41	22	417	65	66	-250	-24	-44
近畿地方	149	67	36	246	109	90	-97	-42	-54
中国地方	170	100	54	221	0	121	-51	100	-67
四国地方	212	86	42	222	169	95	-10	-83	-53
九州北部	257	48	32	216	0	62	41	48	-30
九州南部・奄美地方	253	32	59	184	78	17	69	-46	42

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「3月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

# スーパーマーケット景気動向調査

2019年4月調査結果（3月実績）  
（2019年4月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」  
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」  
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

## 4月調査（3月実績）結果概況

### 景気判断 現状判断DIは大きく改善

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+4.6の44.3、見通し判断は前月から+1.0の41.1となり、共に2ヵ月連続で改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共にマイナス圏の推移が続いているものの、前月に比べて7ポイント程度上昇した。青果の相場安により、生鮮仕入原価DIはマイナス圏で推移が続いているが、一般食品に値上げが相次いだことで、食品仕入原価DIは6.3、客単価DIが-3.6まで上昇したことや日曜日が一回多い曜日巡りにより、来客数DIも-11.4とマイナス幅を縮小したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、青果相場安により、青果DIが-23.2と大幅なマイナス圏で推移しているものの、行楽需要やハレの日にちなんだ需要が高まり、他のカテゴリーDIでは、すべて前月に比べDIは上昇をみせている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、2ヵ月連続で改善したものの、昨年10月以降の悪化により中長期トレンドはすべて下向きでの推移が続いている。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

景況感は2ヵ月連続で改善したが、現状判断DIが中心となっており、青果相場下落による低迷が引き続き下押しするなか、日曜日の一回多い曜日巡りや、食品の相次ぐ値上げが判断を引き上げた構造となっている。今後の見通し判断DI改善に向けては、さらなる外部環境の好転が待たれる。消費税率引き上げを控え、消費に不透明感が増すことが予想され、先行きは予断を許さない。

#### 景況感調査

##### 現状判断

<b>景気判断DI</b> 当月： <b>44.3</b> (+4.6) 前月：39.7	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月： <b>43.3</b> (+2.5) 前月：40.8	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月： <b>41.5</b> (+2.8) 前月：38.7	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月： <b>44.7</b> (+1.3) 前月：43.4
--	---	---	---

##### 見通し判断

<b>景気判断DI</b> 当月： <b>41.1</b> (+1.0) 前月：40.1	<b>消費者購買意欲DI</b> 当月： <b>42.6</b> (+1.2) 前月：41.4	<b>周辺地域 競合状況DI</b> 当月： <b>39.1</b> (+1.1) 前月：38.0	<b>店舗周辺地域 景気判断DI</b> 当月： <b>43.9</b> (+0.3) 前月：43.6
--	---	---	---

#### 経営動向調査 経営状況

<b>売上高DI</b> 当月： <b>-10.5</b> (+7.4) 前月：-17.9	<b>客単価DI</b> 当月： <b>-3.6</b> (+6.6) 前月：-10.2	<b>来客数DI</b> 当月： <b>-11.1</b> (+3.5) 前月：-14.6	
<b>収益DI</b> 当月： <b>-8.6</b> (+7.3) 前月：-15.9	<b>販売価格DI</b> 当月： <b>-1.9</b> (+1.5) 前月：-3.4	<b>生鮮品仕入原価DI</b> 当月： <b>-2.0</b> (+3.7) 前月：-5.7	<b>食品仕入原価DI</b> 当月： <b>6.2</b> (+5.3) 前月：0.9

#### カテゴリー動向

<b>青果DI</b> 当月： <b>-23.2</b> (+2.7) 前月：-25.9	<b>水産DI</b> 当月： <b>-1.3</b> (+4.2) 前月：-5.5	<b>畜産DI</b> 当月： <b>-2.8</b> (+10.9) 前月：-13.7	
<b>惣菜DI</b> 当月： <b>-2.4</b> (+4.9) 前月：-7.3	<b>日配DI</b> 当月： <b>-8.5</b> (+5.9) 前月：-14.4	<b>一般食品DI</b> 当月： <b>0.3</b> (+8.3) 前月：-8.0	<b>非食品DI</b> 当月： <b>-8.3</b> (+4.1) 前月：-12.4

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス



## 4月調査（3月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

### 1. 売上高DI

マイナス幅を縮小も、引き続き二桁マイナス圏で推移

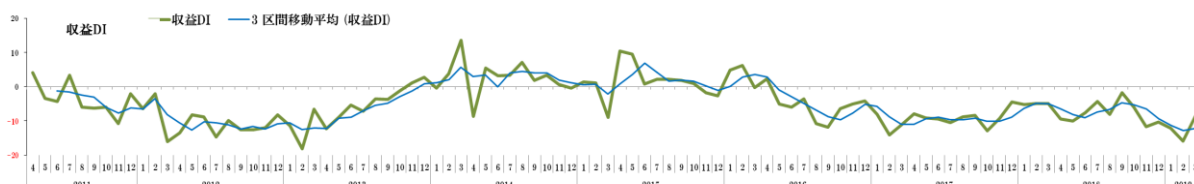
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	20.2	44.6	22.3	12.4	0.5	-17.9
売上高（当月）	<b>14.2</b>	<b>35.8</b>	<b>29.0</b>	<b>19.9</b>	<b>1.1</b>	<b>-10.5</b>



### 2. 収益DI

当月上昇しマイナス幅を縮小

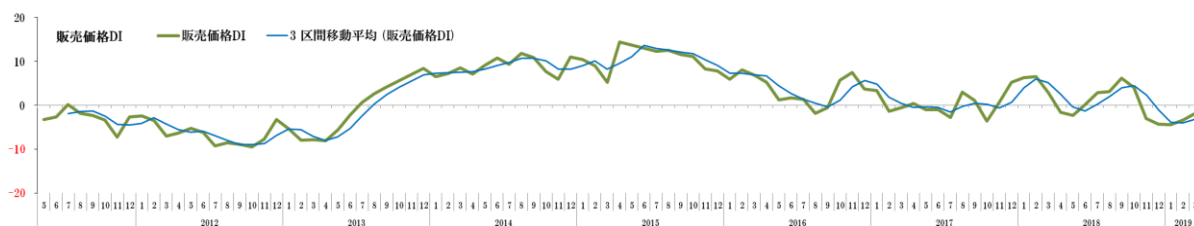
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	18.5	40.2	29.1	10.6	1.6	-15.9
収益（当月）	<b>9.8</b>	<b>39.1</b>	<b>28.7</b>	<b>20.7</b>	<b>1.7</b>	<b>-8.6</b>



### 3. 販売価格DI

小幅なマイナス圏で横ばい推移

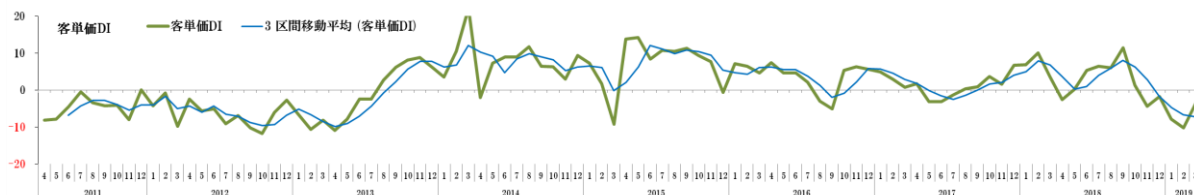
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	1.0	25.5	59.4	14.1	0.0	-3.4
販売価格（当月）	<b>0.6</b>	<b>23.4</b>	<b>58.9</b>	<b>17.1</b>	<b>0.0</b>	<b>-1.9</b>



### 4. 客単価DI

マイナス幅を縮小し、小幅なマイナス域で推移

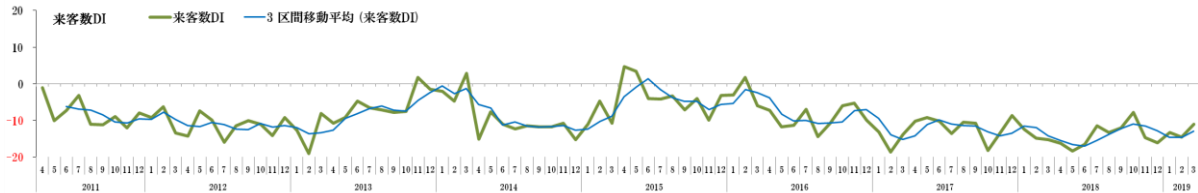
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	5.2	45.0	35.1	14.7	0.0	-10.2
客単価（当月）	<b>1.7</b>	<b>29.7</b>	<b>49.7</b>	<b>18.9</b>	<b>0.0</b>	<b>-3.6</b>



## 5. 来客数 DI

当月やや上昇も二桁マイナス圏で低迷続く

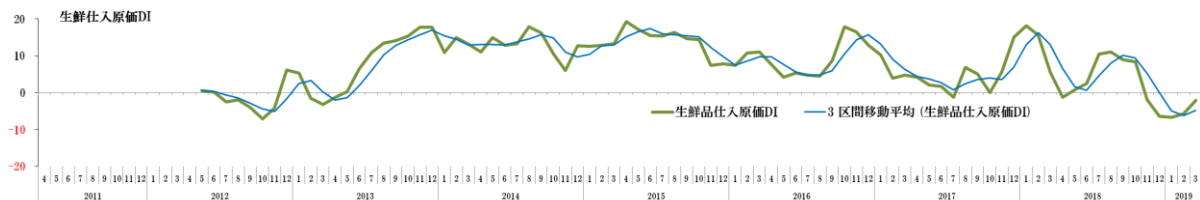
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	13.0	49.5	22.4	13.0	2.1	-14.6
<b>来客数 (当月)</b>	<b>9.2</b>	<b>40.8</b>	<b>36.8</b>	<b>11.5</b>	<b>1.7</b>	<b>-11.1</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

マイナス幅縮小も、5ヵ月連続のマイナス圏

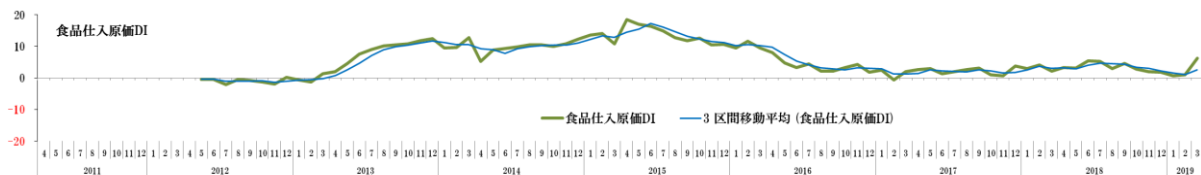
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	5.9	28.3	49.2	16.0	0.5	-5.7
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>4.0</b>	<b>24.3</b>	<b>50.3</b>	<b>18.5</b>	<b>2.9</b>	<b>-2.0</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

当月上昇し、プラス幅を拡大

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.2	14.7	57.9	23.7	0.5	0.9
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>2.9</b>	<b>9.2</b>	<b>50.9</b>	<b>34.1</b>	<b>2.9</b>	<b>6.2</b>

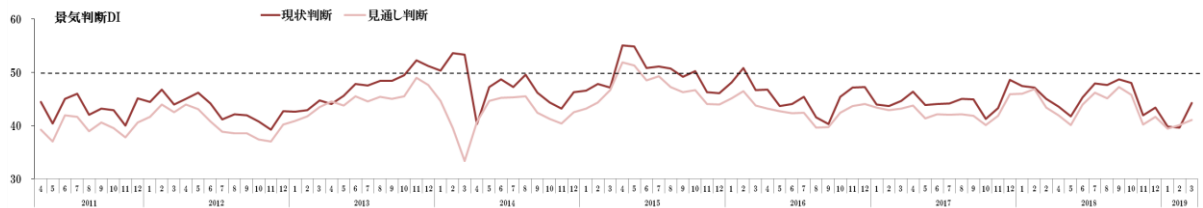


## II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は大幅に改善、見通し判断は小幅な改善にとどまる

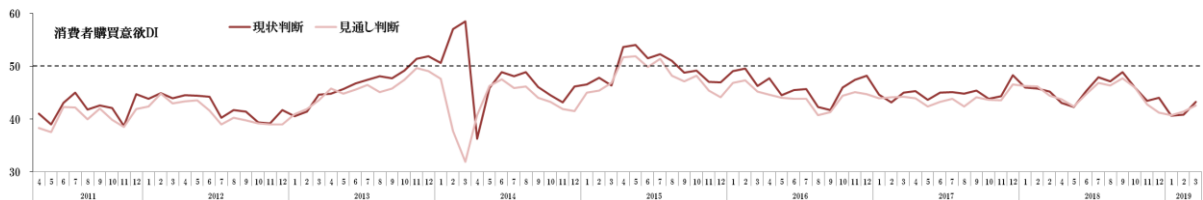
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	5.8	35.1	54.5	4.2	0.5	39.7
【現状】景気判断 (当月)	<b>4.6</b>	<b>27.0</b>	<b>56.3</b>	<b>10.9</b>	<b>1.1</b>	<b>44.3</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	7.3	32.5	53.4	6.3	0.5	40.1
【見通し】景気判断 (当月)	<b>6.3</b>	<b>31.6</b>	<b>53.4</b>	<b>8.6</b>	<b>0.0</b>	<b>41.1</b>



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は大幅に改善、見通し判断は小幅な改善にとどまる

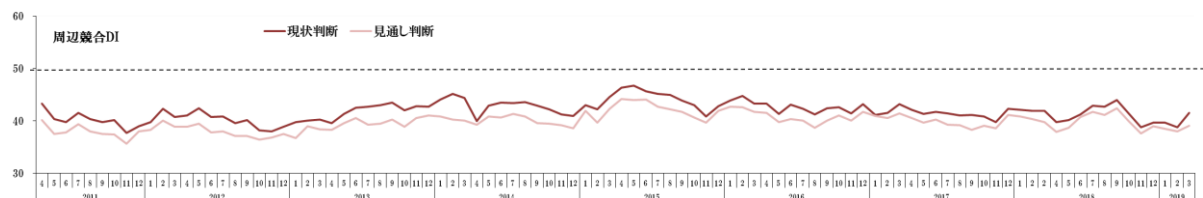
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.6	36.1	56.5	4.7	0.0	40.8
【現状】購買意欲 (当月)	<b>2.3</b>	<b>29.1</b>	<b>61.7</b>	<b>6.9</b>	<b>0.0</b>	<b>43.3</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.6	33.2	60.0	4.2	0.0	41.4
【見通し】購買意欲 (当月)	<b>2.9</b>	<b>30.3</b>	<b>60.6</b>	<b>6.3</b>	<b>0.0</b>	<b>42.6</b>



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にやや改善

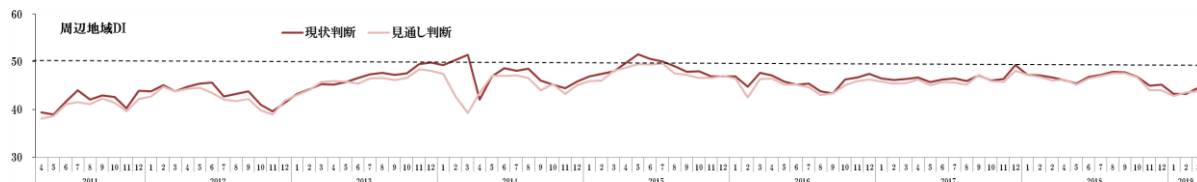
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	6.3	35.1	56.0	2.6	0.0	38.7
【現状】競合状況 (当月)	<b>5.1</b>	<b>26.7</b>	<b>65.3</b>	<b>2.8</b>	<b>0.0</b>	<b>41.5</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	8.9	34.6	52.4	4.2	0.0	38.0
【見通し】競合状況 (当月)	<b>9.1</b>	<b>29.0</b>	<b>58.5</b>	<b>3.4</b>	<b>0.0</b>	<b>39.1</b>



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に改善も前月水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	25.0	73.4	0.5	0.0	43.4
【現状】地域景気 (当月)	1.7	20.2	75.7	2.3	0.0	44.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.1	22.9	73.4	1.6	0.0	43.6
【見通し】地域景気 (当月)	2.3	22.1	73.3	2.3	0.0	43.9



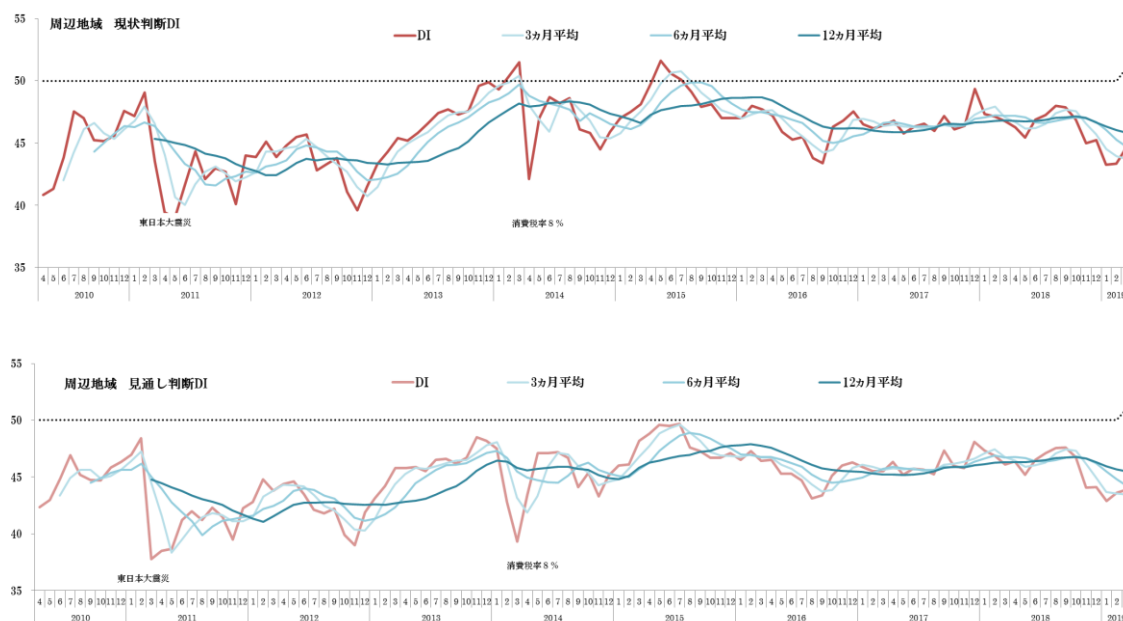
#### ※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

10月から再び悪化幅を広がり、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、以降弱含みの推移が続いた。3月に入りやや持ち直しの動きをみせた。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：-23.2（かなり不調）

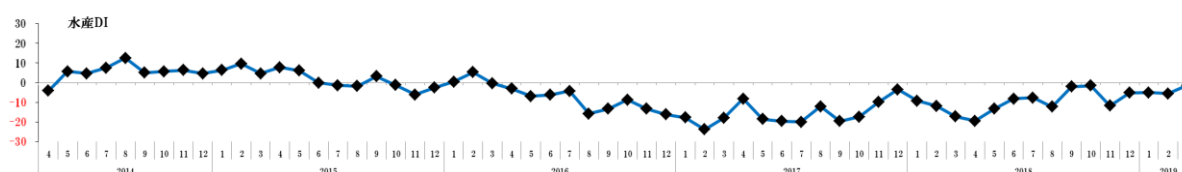
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	38.9	35.7	16.8	7.6	1.1	-25.9
青果（当月）	<b>33.3</b>	<b>38.7</b>	<b>17.9</b>	<b>7.7</b>	<b>2.4</b>	<b>-23.2</b>



引き続き、薬物や土物類などを中心として相場安が続いており、一品単価が低迷したことでかなり不調な動向となった。春物の豆類（グリーンピース・スナップエンドウ）、健康報道のあった玉ねぎや舞茸などが好調とのコメントがみられた。果物類は不作で価格の高いいちごや、入荷が不安定な柑橘類は好不調まちまちであったが、キウイフルーツやアボカドの動きがよかった。

#### 2. 水産DI：-1.3（やや不調）

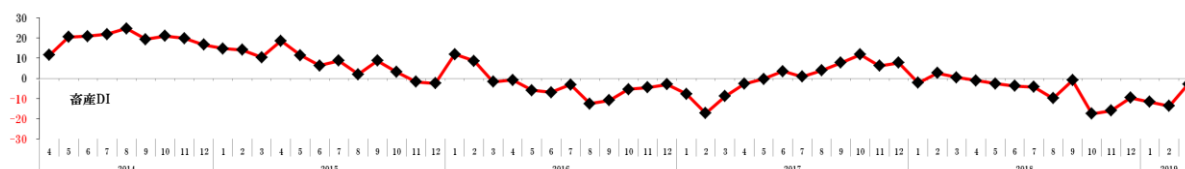
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	11.4	29.2	32.4	24.3	2.7	-5.5
水産（当月）	<b>7.2</b>	<b>27.5</b>	<b>36.5</b>	<b>21.0</b>	<b>7.8</b>	<b>-1.3</b>



引き近海魚は入荷の不安定な状況が続き低迷しているが、カツオの売上に回復傾向がみられているほか、あじやぶり、さばなどの大衆魚が比較的好調となった。旬のホタルイカやイカナゴは不漁により大きく落ち込んだ店舗が多い。ひな祭り商戦では、週末と重なったことで、手巻き寿司セットなどが好調となった。海藻類はこれまでの特需からの反動減もみられた。

#### 3. 畜産DI：-2.8（やや不調）

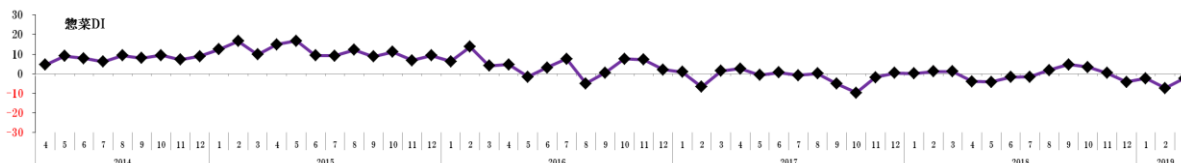
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	15.1	40.3	30.1	13.4	1.1	-13.7
畜産（当月）	<b>7.8</b>	<b>28.7</b>	<b>34.7</b>	<b>24.6</b>	<b>4.2</b>	<b>-2.8</b>



イベントが多い月にあたり、簡便化メニューとご馳走メニューに消費が二極化した傾向がみられた。牛肉は焼肉やステーキ、しゃぶしゃぶなどのメニューが堅調で和牛と輸入牛に消費が二極化する傾向がみられた。豚肉は気温の上昇とともに生姜焼き用や炒め物用の需要が高まり、相場がやや高騰している国産、輸入豚どちらの動きもよかった。鶏肉は銘柄鶏を中心に好調となった一方で、価格競争の厳しさを指摘するコメントもみられた。ハムやソーセージなどの加工肉はやや持ち直し傾向が続いている。

#### 4. 惣菜DI：-2.4（やや不調）

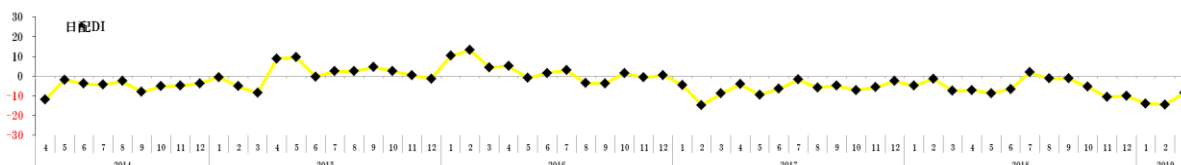
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	11.0	29.8	38.7	18.2	2.2	-7.3
惣菜（当月）	6.6	25.9	42.2	21.1	4.2	-2.4



日曜日が一回多い曜日巡りに加え、気温が高く、比較的天候に恵まれたため行楽需要、弁当やおにぎりなどの米飯類や寿司類、麺類、焼き物などが全般的に好調に推移した。特に旬の食材を使った季節感や加工度の高い惣菜の動きがよいとのコメントが多くみられた。前年青果相場の高騰により好調であったサラダ関連は反動で不振となった。人手不足により新商品開発などが十分に行えないことへの不安もみられた。

#### 5. 日配DI：-8.5（やや不調）

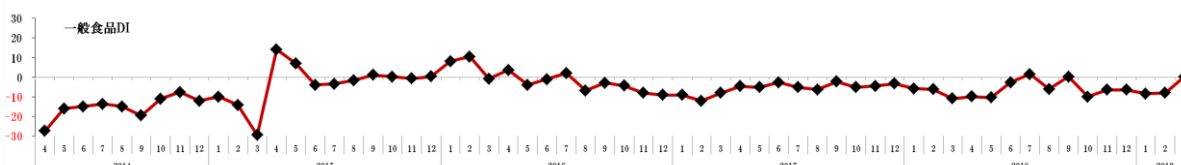
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	14.5	39.2	35.5	10.8	0.0	-14.4
日配（当月）	9.5	36.3	34.5	17.9	1.8	-8.5



昼夜の寒暖の差大きく売場づくりに苦心したというコメントが多くみられた。機能性ヨーグルトは販売が好調な一方で価格競争が厳しかった。青果相場の下落を受けて漬物カテゴリーは不振となった。健康報道により納豆、甘酒、梅干しには特需が続いている。さらにTV報道があったチーズ類を好調とするコメントが多い。牛乳やパン類は持ち直し傾向がみられた。アイスは前年の反動で不調となった店舗が多い。

#### 6. 一般食品：0.3（やや好調）

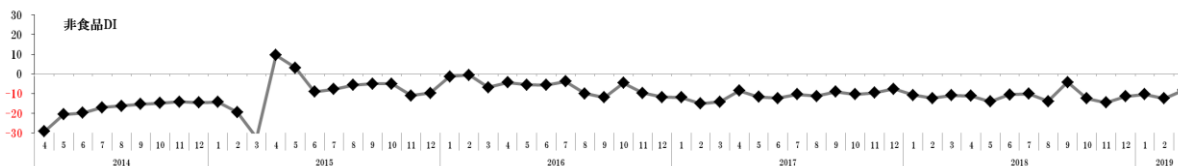
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.1	33.7	39.6	15.5	2.1	-8.0
一般食品（当月）	3.6	25.4	42.0	24.3	4.7	0.3



一般食品カテゴリーで値上げが続いているが、報道によりサバ缶やえごま油などの食油、リンゴ酢、もち麦などの雑穀類に特需が継続しており、全体としてやや好調となった。またNHKドラマの影響で乾麺も好調となっている。また米類も好調となった。行楽用の飲料やウイスキーは好調となっているが、ビールは気温差の影響で地域により好不調まちまちとなった。また、菓子類や酒類はドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争の厳しさへの指摘が目立った。

## 7. 非食品 DI：-8.3（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	14.9	34.8	37.0	11.6	1.7	-12.4
非食品（当月）	10.4	33.7	37.4	15.3	3.1	-8.3



例年より花粉の飛散が多く、マスクや紙製品の動きがよかった。電子タバコを中心に好調とのコメントが多くみられた。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

### カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20      好調：20 ～ 10      やや好調：10 ～ 0  
 やや不調：0 ～ -10      不調：-10 ～ -20      かなり不調：-20～

### 2019年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一日多い
2. 青果相場安
3. 消費の二極化

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 176社  
 2月実績確報版 193社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)